

参議院常任委員会調査室・特別調査室

論題	余白
著者 / 所属	清野 和彦 / 国土交通委員会調査室
雑誌名 / ISSN	立法と調査 / 0915-1338
編集・発行	参議院事務局企画調整室
通号	470号
刊行日	2024-11-1
頁	278
URL	https://www.sangiin.go.jp/japanese/annai/chousa/rip_pou_chousa/backnumber/20241101.html

※ 本文中の意見にわたる部分は、執筆者個人の見解です。

※ 本稿を転載する場合には、事前に参議院事務局企画調整室までご連絡ください (TEL 03-3581-3111 (内線 75020) / 03-5521-7686 (直通))。

余白																	
																清野	和彦

前2号の小欄では、日本人にとっての「理想の仕事」と、日本の雇用者の仕事の特徴に関する研究結果を紹介した。前者においては、一貫して「仲間と楽しく働ける仕事」が「理想の仕事」に選ばれ、職場の同僚とのつきあい方として「なにかにつけ相談したり、たすけ合えるようなつきあい」が選好されているということであった。

とは言え、私たちの日々の仕事の実際というものは、必ずしも理論のとおりに進むようなものではないから、単純に成功事例を模倣すれば職場の問題が解決できたり、いい職場ができあがるなどということはないことは、誰もが知っている。そこで、今回は全く違う角度からの研究を紹介したい。

「毎日の仕事がつまらないと思っている人。嫌いな上司、同僚、顧客の顔が浮かんで、休みの日も憂鬱な気持ちで過ごしている人。本当はもっと輝けるのになぁと思いながら働いている人。自分ってなんて頭が悪くて仕事の効率が低いのだろうと感じている人。働くのが辛すぎるから、もう辞めたいと思っている人」などと言われれば、自分のことかと考える人が多いのではないか。昨年末に出版された、鈴木智之『絶望と苦悩の職場からのブレイクスルー』は、そのタイトルからしてあまりにも衝撃的なのだが、先ほど列举したのは、著者による同書の想定読者だ。そんな同書は、性格と仕事の関係を明らかにする科学研究を、私たちのようなビジネスパーソンにもわかりやすく解説してくれている。

そこで取り上げられるキーワードは、決して読後感爽やかなものではないが、いくつかを紹介しよう。

職場にいる「嫌な人」や「酷い人」の心の中を解説する「ダーク・トライアド(Dark Triad)」。

その構成要素である「マキャベリアニズム(=他者を信頼せず、他者をコントロールしようとし、道徳心がなく、何かをごまかし、嘘をついてでも自己利益を最大化しようとする特性)」、「ナルシシズム(=過度な自己愛と自己中心性による特性)」、そして「サイコパシー(=他者と社会ルールへの関心が欠如しており、他者を傷つけることへの良心の呵責や罪責感が欠如していて、衝動性を併せ持つ特性)」。

職場で常に優位に立ちたがる、とても偉そうな人。そういった人の歪んだ有能感を理論化した「仮想的有能感(Assumed Competence)」。

他にも「レジリエンス」、「内省と反芻」、「私的自意識と公的自意識」、「GRIT」、「多重知能理論」など、職場での「辛さ」から抜け出すヒントがある。

〔参考〕鈴木智之(2023)『絶望と苦悩の職場からのブレイクスルー——世界の性格心理研究が明かす逆境への生存戦略』中央経済社

(本誌企画委員長(国土交通委員会調査室))

●編集後記● 気温が高すぎて外で遊べない、水泳の授業ができない。子供時代に経験しなかったような危険な暑さに今夏も晒されました。今号では特集「脱炭素をめぐる諸課題」をお送りします。COP29の開催を控え脱炭素政策への関心が世界中で高まるこの時期、活用していただけたら幸いです。[球]

次号予告 (令和6年12月10日)

特集 注目トピックス

- 本誌の掲載論文等の意見にわたる部分は執筆者個人の見解です。
- 本誌の掲載論文等を転載する場合には、事前に参議院事務局企画調整室までご連絡ください。
- 本誌の掲載論文等は、参議院ホームページ<www.sangiin.go.jp>及びイントラネットの「立法調査情報」でもご覧いただけます。
- 本誌のバックナンバーは、右記QRコードからご参照ください。



立法と調査 No.470

令和6年11月1日 発行

編集・発行 参議院事務局企画調整室

〒100-0014 東京都千代田区永田町1-11-16
参議院第二別館内

TEL 03-3581-3111 (内線75020)
03-5521-7686 (直通)